



# 北海道大学スラブ研究センター 21世紀 COE プログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」 主催シンポジウムのご案内 「スラブ・ユーラシア学の幕開け」

今回のシンポジウムでは、従来のロシア(ソ連)東欧研究を一変する視点と方法論で、新しい地域研究の地平を切り拓きます。それは 21 世紀 COE プログラムの締めくくりでもあり、広く一般市民の方々のご来場も歓迎いたします。シンポジウムは一日ずつ独自の構成で3日間おこなわれます。

## 1月24日(木)：「スラブ・ユーラシアをつくる、くくる、えがく」

初日のプログラムは、5年に亘るプログラムの研究成果を広く世に問う企画です。

**第1パネル**では、**地域はどのように形成されるか**という地域研究の基本的な問題に関して、様々な地域の専門家がスラブ・ユーラシア地域を超えて議論をくりひろげます。

**第2パネル**は、スラブ・ユーラシアを**帝国空間**として捉える試みであり、スラブ研究センターの帝国論者と気鋭の帝国論者との間で最先端の議論がなされるものと期待されます。

**第3パネル**は、**心象地理的、言語文化論的**なスラブ・ユーラシア像を描き出すことを目指します。「文」学はスラブ・ユーラシア学の重要な柱であり、「文」はこの地域の地域像を形成するうえで決定的ともいえる役割を果たしています。

「スラブ・ユーラシア学の構築」プログラムでは「**中域圏**」という柔軟な地域設定を分析の出発に据えて、地域研究の進展を図ってきました。以上の3つのパネルは、そうした研究の結実ないし発展した成果を体現するものとなるでしょう。

## 1月25日(金)：「次世代の挑戦」(若手研究者自主企画)

2日目は若手研究者の自主企画パネルが3つ続きます。

**第1パネル**は**学知**をキーワードにして組織されました。ロシア・ソ連における知のあり方が俎上に載せられます。

**第2パネル**は**跨境**と隣接世界を切り口として、スラブ・ユーラシアの東の果てから西の果てに至るまで視野を広げ議論を展開します。

**第3パネル**は**宗教**がテーマです。イスラーム、ユダヤ、古儀式派という視角からどのようなスラブ・ロシア像が見えてくるのでしょうか。

若手研究者の問題意識は柔軟です。かつての社会主義期におけるソ連東欧研究とは隔世の感すらあります。こうした新しい研究動向を摂取していくこともスラブ・ユーラシア学の幕開けの重要な一幕です。

## 1月26日(土)：「ロシアと中東の間のコーカサスとその住人たち」

3日目は国際シンポジウムです。21 世紀 COE プログラム枠として赴任した前田弘毅講師が中心となって組織されました。スラブ・ユーラシアを南あるいはペルシャ/中東から見るという新しい論点がこの企画によって打ち出されます。この企画が**イスラーム地域研究との共同開催**であるということにも、「スラブ・ユーラシア学の構築」が目指した**他地域との研究連携**という考え方がよく発揮されています。その意味で、総括シンポジウムに相応しい企画です。

スラブ研究センターが東京でこうした大規模なシンポジウムを開催するのは今回が初めてです。行き届きの点もあるかと存じますが、どうぞ最後までお付き合い下さいますようお願い申し上げます。

21 世紀 COE 拠点リーダー：家田修

『講座スラブ・ユーラシア学』全3巻 講談社 各2,000円(予定)

シンポジウム開催に合わせて刊行開始。第1巻『開かれた地域研究へ』会場で販売。